

安城更生病院外科専門研修プログラム

1. 安城更生病院外科専門研修プログラムについて

安城更生病院外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点である。

- 1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
- 4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
- 5) 外科領域全般からサブスペシャルティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺、内分泌外科）またはそれに準じた外科関連領域の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

2. 研修プログラムの施設群

安城更生病院外科と連携施設（10施設）により専門研修施設群を構成する。

本専門研修施設群では25名の専門研修指導医が専攻医を指導する。

専門研修基幹施設

名称	都道府県	1:消化器外科, 2:心臓血管外科, 3:呼吸器外科, 4:小児外科, 5:乳腺内分泌外科, 6:その他(救急含む)	1. 統括責任者名 2. 統括副責任者名
安城更生病院	愛知県	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 雨宮 剛 2. 新井 利幸

専門研修連携施設

No.	連携施設担当者名
1. 豊橋市民病院	藤井 正宏
2. 碧南市民病院	木村 賢哉
3. 八千代病院	宇治 誠人
4. 半田市立半田病院	太平 周作
5. 西知多総合病院	平田 明裕
6. 長寿医療センター	藤城 健
7. 中東遠医療センター	河合 徹

- | | |
|-----------------|-------|
| 8. 三重大学医学部付属病院 | 庄村 遊 |
| 9. 名古屋大学医学部付属病院 | 高見 秀樹 |
| 10. 愛知医科大学付属病院 | 中野 正吾 |

3. 専攻医の受け入れ数について

本専門研修施設群の3年間NCD登録数は9779例で、専門研修指導医は25名のため、本年度の募集専攻医数は7名とする。

4. 外科専門研修について

1) 外科専門医は初期臨床研修修了後、3年（以上）の専門研修で育成される。

- 3年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低6カ月以上の研修を行う。
- 専門研修の3年間の1年目、2年目、3年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度（コアコンピテンシー）と外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識・技術の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮する。具体的な評価方法は後の項目で示す。
- サブスペシャリティ領域によっては外科専門研修を修了し、外科専門医資格を習得した年の年度初めに遡ってサブスペシャリティ領域専門研修の開始と認める場合がある。サブスペシャリティ領域連動型については現時点では未定である（2016年1月）。
- 研修プログラムの修了判定には規定の経験症例数が必要である。（専攻医研修マニュアル-経験目標2-を参照）
- 初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCDに登録されていることが必須）は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、手術症例数に加算することができる。

2) 年次毎の専門研修計画

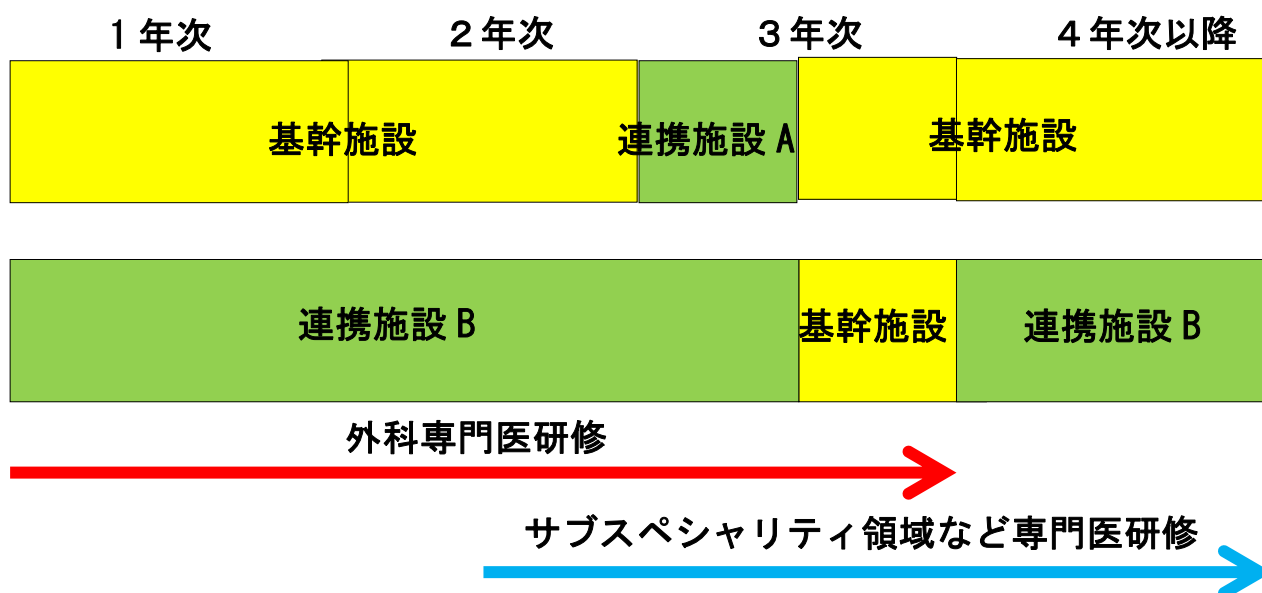
- 専攻医の研修は、毎年達成目標と達成度を評価しながら進められる。以下に年次毎の研修内容・習得目標の目安を示す。なお、習得すべき専門知識や技能は専攻医研修マニュアルを参照。
- 専門研修1年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とする。専攻医は定期的に関催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learningや書籍や論文などの通読、日本外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習

得を図る。

- 専門研修2年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とする。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の習得を図る。
- 専門研修3年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とする。カリキュラムを習得したと認められる専攻医は、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進む。
- 外科専門研修を行っているいずれの時期でも、研修中の病院が行政によって担当が定められている災害救護や救急医療には、外科医として積極的に参加して経験を積む。

(具体例)

下図に安城更生病院外科研修プログラムの1例を示す。専門研修1年目は基幹施設または連携施設で開始され、2年目から3年目の間に6か月間、それぞれ連携施設または基幹施設で研修する。



安城更生病院外科研修プログラムでの3年間の施設群ローテーションにおける研修内容と予想される経験症例数を下記に示す。どのコースであっても内容と経験症例数に偏り、不公平がないように十分配慮する。安城更生病院外科研修プログラムの研修期間は3年間としているが、習得が不十分な場合は習得できるまで期間を延長する

（未修了）。一方で、カリキュラムの技能を習得したと認められた専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能教育を開始する。

専門研修1年目

基幹施設または連携施設群のうちいずれかに所属し研修を行う。

一般外科/麻酔/救急/病理/消化器/心・血管/呼吸器/小児/乳腺・内分泌

経験症例150例以上（術者50例以上）

専門研修2年目～3年目

基幹施設で研修を開始したものは、2年目～3年目のあいだに6か月間連携施設で研修を行う（地域医療ならびに全人的医療の研修）。

連携施設で研修を開始したものは、2年目～3年目のあいだに6か月間基幹施設で研修を行う（心・血管/呼吸器/小児外科の研修）。

経験症例150例以上（術者50例以上）／年

3) 研修の週間計画および年間計画

基幹施設（安城更生病院 外科）

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金	土	日
7:00-7:30 抄読会、勉強会			○				
12:00-12:20 病棟症例カンファレンス	○	○	○	○	○		
夕方 乳腺カンファレンス	○						
17:00-21:00 外科カンファレンス				○			
18:30-20:00 消化器内科合同カンファレンス		○					
7:00-8:00 救急外来カンファレンス		○					
17:00-18:00 医局会					○		
8:30- 病棟業務・回診	○	○	○	○	○		
8:30- 手術	○	○	○	○	○		
8:30-12:00 外来業務	○	○	○	○	○		
13:00-16:00 外来業務	○	○	○	○	○		

5. 専攻医の到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）

- 専攻医研修マニュアルの到達目標1（専門知識）、到達目標2（専門技能）、到達目標3（学問的姿勢）、到達目標4（倫理性、社会性など）を参照。

6. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得

（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

- 基幹施設および連携施設それぞれにおいて医師および看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行い、専攻医は積極的に意見を述べ、同僚の意見を聴くことにより、具体的な治療と管理の論理を学ぶ。
- 多科合同カンファレンス、Cancer Board、CPC、その他：診療科横断的なカンファレンスに参加する。専攻医は症例の提示を行い、積極的に意見を述べ、幅広い知識を習得する。
- 各施設において抄読会や勉強会を実施する。専攻医は最新のガイドラインを参照するとともにインターネットなどによる情報検索を行う。
- トレーニング設備や教育DVDなどを用いて積極的に手術手技を学ぶ。
- 日本外科学会の学術集会（特に教育プログラム）、e-learning、その他各種研修セミナーや各病院内で実施されるこれらの講習会などで下記の事柄を学ぶ。
- 標準的医療および今後期待される先進的医療
- 医療倫理、医療安全、院内感染対策

7. 学問的姿勢について

専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められる。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身につける。学会には積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表する。さらに、得られた成果は論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につける。

研修期間中に以下の要件を満たす必要がある。（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

- 日本外科学会定期学術集会に1回以上参加
- 指定の学術集会や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表

8. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて

（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

医師として求められるコアコンピテンシーには態度、倫理性、社会性などが含まれている。内容を具体的に示す。

- 1) 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナリズム）
- 医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族

から信頼される知識・技能および態度を身につける。

- 2) 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること
 - 患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとに的確な医療を目指す。
 - 医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応をマニュアルに沿って実践する。
- 3) 臨床の現場から学ぶ態度を習得すること
 - 臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につける。
- 4) チーム医療の一員として行動すること
 - チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動する。
 - 的確なコンサルテーションを実践する。
 - 他のメディカルスタッフと協調して診療にあたる。
- 5) 後輩医師に教育・指導を行うこと
 - 自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当し、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導を担う。
- 6) 保健医療や主たる医療法規を理解し、遵守すること
 - 健康保険制度を理解し保健医療をメディカルスタッフと協調し実践する。
 - 医師法・医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解する。
 - 診断書、証明書が記載できる。

9. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

1) 施設群による研修

本研修プログラムでは安城更生病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに病院施設群を構成している。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となる。地域の連携病院で多彩な症例を多数経験することで医師としての基本的な力を獲得する。安城更生病院外科研修プログラムのどのコースに進んでも指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分配慮する。

施設群における研修の順序、期間等については、専攻医数や個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、安城更生病院外科専門研修プログラム管理委員会が決定する。

2) 地域医療の経験（専攻医研修マニュアル-経験目標3-参照）

地域の連携病院では責任を持って多くの症例を経験することができる。また、地域

医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶことができる。以下に本研修プログラムにおける地域医療についてまとめる。

- 本研修プログラムの連携施設には、その地域における地域医療の拠点となっている施設（地域中核病院、地域中小病院）が入っています。そのため、連携施設での研修中に以下の地域医療（過疎地域も含む）の研修が可能である。
- 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践する。
- 消化器がん患者の緩和ケアなど、ADLの低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案する。

10. 専門研修の評価について

（専攻医研修マニュアル-VI-参照）

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものである。専門研修1年目、2年目、3年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価する。このことにより、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮している。専攻医研修マニュアルVIを参照。

11. 専門研修プログラム管理委員会について

基幹施設である安城更生病院には、専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置く。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれる。安城更生病院外科専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長）、副委員長、事務局代表者、外科の4つの専門分野（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科）の研修指導責任者、および連携施設担当委員などで構成される。研修プログラムの改善へ向けての会議には専門医取得直後の若手医師代表が加わる。専門研修プログラム管理委員会は、専攻医および専門研修プログラム全般の管理と、専門研修プログラムの継続的改良を行う。

12. 専攻医の就業環境について

- 1) 専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努める。
- 2) 専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘルズに配慮する。
- 3) 専攻医の勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて各専門研修基幹施

設、各専門研修連携施設の施設規定に従う。

13. 修了判定について

3年間の研修期間における年次毎の評価表および3年間の実地経験目録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年(3年目あるいはそれ以後)の3月末に研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をする。

14. 外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

専攻医研修マニュアルVIIIを参照。

15. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

研修実績および評価の記録

外科学会のホームページにある書式(専攻医研修マニュアル、研修目標達成度評価報告用紙、専攻医研修実績記録、専攻医指導評価記録)を用いて、専攻医は研修実績(NCD登録)を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。総括的評価は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年1回行う。安城更生病院教育研修・臨床研究支援センターにて、専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用いる。

●専攻医研修マニュアル

別紙「専攻医研修マニュアル」参照。

●指導者マニュアル

別紙「指導医マニュアル」参照。

●専攻医研修実績記録フォーマット

「専攻医研修実績記録」に研修実績を記録し、手術症例はNCDに登録する。

●指導医による指導とフィードバックの記録

「専攻医研修実績記録」に指導医による形成的評価を記録する。

16. 専攻医の採用と修了

採用方法

安城更生病院外科専門研修プログラム管理委員会は、毎年7月から説明会等を行い、

外科専攻医を募集します。プログラムへの応募者は、10月31日までに研修プログラム責任者宛に所定の形式の『安城更生病院外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出してください。申請書は(1) 安城更生病院のwebsite:
<https://anjokosei.jp/>→安城更生病院外科専門研修プログラムよりダウンロード、(2)電話で問い合わせ：0566-75-2111（代表）内線：3247教育研修・臨床研究支援センター、(3) e-mailで問い合わせ：kyouiku@kosei.anjo.aichi.jp、のいずれの方法でも入手可能です。原則として11月中旬に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については12月の安城更生病院外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。
定員に満たない場合は2次募集を行います。